

仙北市観光振興計画 (案)

秋田県仙北市
産業観光部観光課

目 次

第1章 序論	
1 計画策定の目的	3
2 基本理念	3
3 計画期間	3
第2章 仙北市の観光の現状と課題	
1 観光客の動向	4
2 観光資源	7
(1) 自然環境	7
(2) 食、特産品	8
(3) まつり、イベント	8
(4) 歴史、文化	9
3 交通アクセス	9
(1) 道路	9
(2) 鉄道	9
(3) 航空	10
4 観光の主な課題	10
第3章 施策の基本方針と展開	
■ 観光振興計画体系図	12
1 基本方針	13
2 重点施策	14
3 エリア別推進方向	15
4 施策の基本方向	17
5 施策の展開	19
(1) 豊富な観光資源の活用と掘り起こし	19
(2) 観光基盤の整備と交通の充実	21
(3) 「おざってたんせの心」による受入態勢づくり	24
(4) 観光情報の発信と情報の収集	26
(5) 観光と農林業、商工業の連携	28
(6) ほんものと出会える体験型観光の推進	30
(7) 国際観光の推進	31
第4章 計画の推進に向けて	
1 計画推進体制の整備	34
2 市民、観光事業者、観光関係団体、行政の役割	34
3 施策の推進プログラム	36

資料編

I	観光アンケート調査	41
II	観光振興計画策定委員会名簿	48
III	計画策定までの経過	49
IV	観光振興計画策定委員会設置要綱	50

第1章 序論

1 計画策定の目的

仙北市は、自然や歴史、文化などのすばらしい観光資源に恵まれており、年間6百万人もの観光客が訪れる、「観光のまち」として知られております。

しかし、観光客数はここ数年横ばいの状態であり、スキー客の減少などが示しているように、冬期間の観光客が他の季節に比べて極端に少ないなど、様々な課題を抱えております。

平成18年度に策定した仙北市総合計画の中では、市の将来像を「観光産業を活かした北東北の交流拠点都市」とし、観光を本市発展のための重要なキーポイントとして、今まで以上に力を入れることとしております。

交流人口1千万人の数値目標を達成し、将来像を現実のものにするためには、既存の観光資源の活用のほか、埋もれている観光資源の掘り起こしや新たな観光メニューの創設等により、行政のみならず、市民、観光関係団体等が知恵を出し合い、創意工夫により観光客の誘致を強力に推進する必要があります。

この計画は、現在本市の観光を取り巻く現状と課題を踏まえ、これらを解決する方策、将来を見据えた観光施策の進む方向を示すものです。

2 基本理念

仙北市の観光に関連する産業は、基幹産業である農林業や商工業と密接に結びつき、観光の振興が全産業に与える効果が大いことから、重要な産業として位置づけられています。

観光の振興を図るとともに、観光と農林業、商工業との連携により、市民全体が豊かになる「観光で潤うまちづくり」を進めます。

また、観光客には、何度でも訪れたい、ほかの人にも勧めたいと思わせる、一年を通して観光客を迎え入れることができる「いつ出かけても、何かある観光のまちづくり」を進めます。

3 計画期間

この計画は、仙北市総合計画の計画期間終期に合わせ、平成19年度から平成27年度までの9年間を計画期間とします。

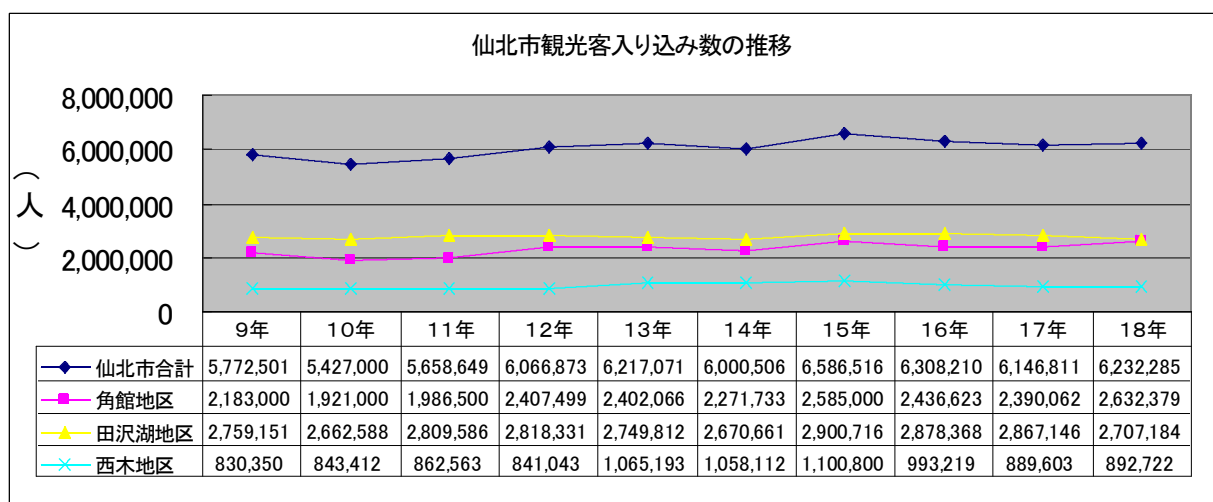
また、観光を取り巻く社会、経済情勢等の変化に対応し、必要に応じ計画の見直しを行います。

第2章 仙北市の観光の現状と課題

1 観光客の動向

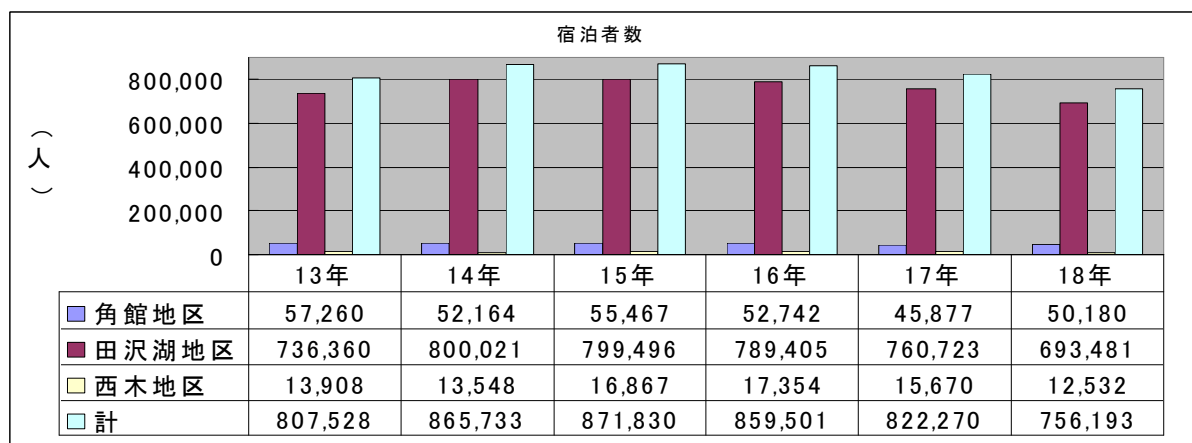
仙北市は、美しい自然や歴史、文化など多くの観光資源に恵まれているだけではなく、人のぬくもりややさしさなど有形、無形の様々な観光資源を有しています。この観光資源を大いに活用することにより、また、先人の努力による自然や文化財の保護活動などにより、現在では東北有数の観光地となっております。しかし、観光客数は、多少の増減はありますが、ここ数年6百万人台で推移しており、観光客を誘致するため様々な施策に努めてはいるものの、増加の兆候が見えてきておりません。

仙北市を訪れる観光客数を10年前と比較すると、角館を訪れる観光客はおよそ20%増加していますが、田沢湖、西木の観光客数にはあまり変化はありません。



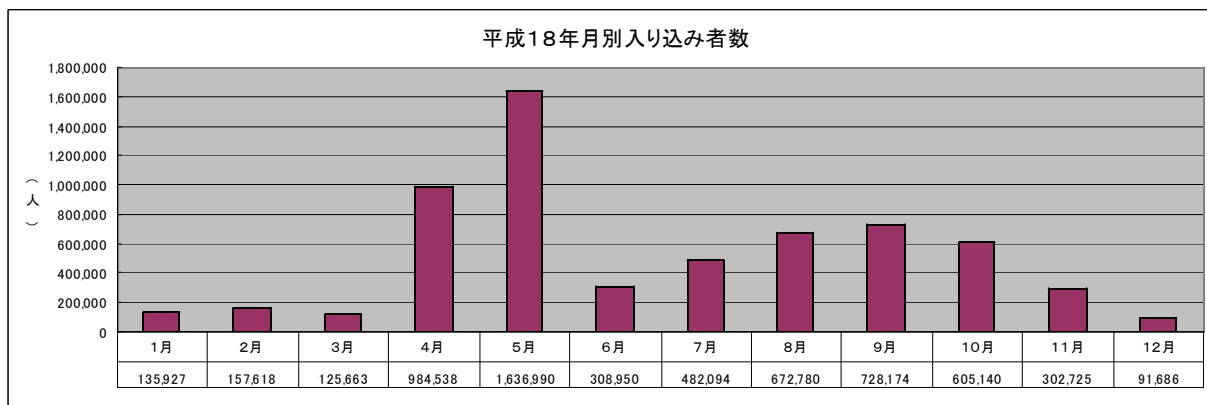
観光誘客のため、角館、田沢湖、西木、各地区それぞれが持っている自然環境や文化などの特長を活かした施策を展開しているところです。角館地区は、武家屋敷通り周辺が観光の軸となっており、桧木内川の桜並木、武家屋敷の枝垂れ桜のほか、角館のお祭りなどに象徴される歴史と文化のまちとして知られています。田沢湖地区は、豊かな自然が息づいている地域で、田沢湖や秋田駒ヶ岳などの大自然を誇り、この自然を活かした観光スポットや温泉郷などが数多く見られます。西木地区は、美しく、素朴な農山村風景が広がる地域で、グリーンツーリズムなどの農家体験をとおして、農山村のありのままの姿を見せるなど都市と農村の交流が盛んです。このように、仙北市は市全域が観光地といっても過言ではないほど、都会にはない自然や訪れる人々をやさしく受け入れる雰囲気醸し出していることから、県内はもちろんのこと、首都圏をはじめとする都会からの来訪者が多く見受けられます。

市の経済に大きな影響を与える宿泊者も若干低下する傾向を見せており、日帰り型の観光に移行しているのではないかと懸念されております。

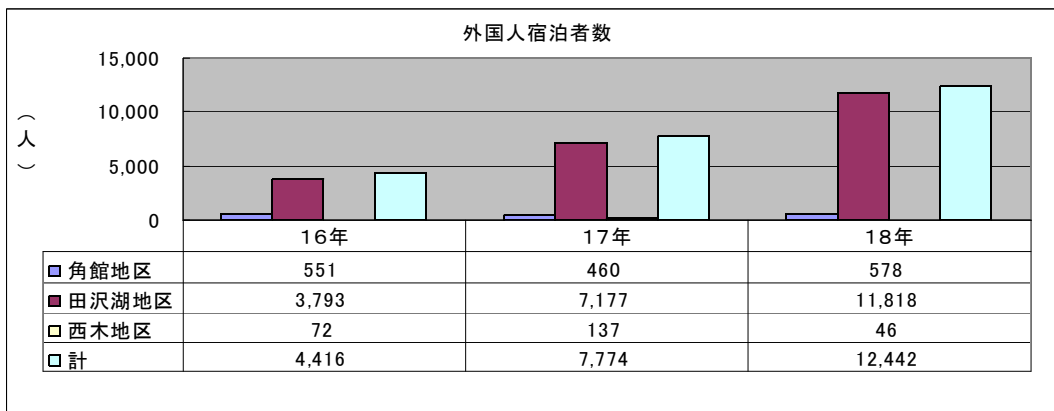


季節別の観光客数を見ると、春に訪れる観光客は、一年間に仙北市を訪れる観光客全体のおよそ半分を占めております。これに対して、冬に訪れる観光客は、1割にも満たない状況と、季節により観光客数にかなりの差が生じています。

今後、冬期の誘客に力を注ぎ、魅力ある通年型観光地を目指す取り組みが求められています。



仙北市を訪れる中国、台湾、韓国をはじめとする外国人観光客は急激に増加してきており、この傾向は今後ますます強まることが予想されます。



2 観光資源

(1) 自然環境

◇ 山や川、湖

仙北市は、秋田県一の高峰である秋田駒ヶ岳、乳頭山に代表される美しい山々が連なり、その雄大な自然景観は訪れる人々を楽しませてしています。ここは国指定天然記念物のコマクサをはじめとする高山植物の宝庫として知られ、春から秋にかけてたくさんの登山客で賑わっています。秋田駒ヶ岳から眼下に見下ろすルリ色に輝く田沢湖の眺望は素晴らしく、辰子姫伝説が語り継がれている水深日本一を誇る神秘の湖です。

また、樹齢数百年ともいわれている日本一のブナで知られる和賀山塊などをはじめとする、観光地化されていない手つかずの自然が多く残されています。

このほか、春から秋にかけて多くの釣り人が訪れる桧木内川や玉川、山奥深くの溪流は、釣りファンには人気のスポットとなっています。玉川の中流に位置する抱返り溪谷は、東北の「耶馬溪」ともいわれ、秋田県を代表する絶景地で、独特の青い溪流と滝は訪れる人たちに感動を与えています。

◇ 温泉

田沢湖地区には、日本一の温泉湧出量を誇る玉川温泉や乳頭温泉郷、田沢湖高原温泉郷、水沢温泉郷など全国的に知られた温泉があり、温泉郷周辺の自然や温泉効能が評価され、地元の方たちだけではなく遠方から訪れる方々も多く見受けられます。

市営の温泉休養施設も各地区に点在しており、子どもからお年寄りまで市民の憩いの場となっています。

◇ 花

春は幾種類もの花が咲き誇ります。角館地区桧木内川堤のおよそ2キロメートル、4百本余りにも及ぶソメイヨシノの桜並木や武家屋敷の枝垂れ桜、田沢湖地区刺巻湿原のミズバショウ、西木地区八津・鎌足のかたくり群生地は、その規模の大きさや美しさはすばらしく、4月から5月にかけての開花時期には花巡りの観光コースとなり、全国から花を求め大勢の方々が訪れております。

秋田駒ヶ岳や乳頭山に自生するコマクサやチングルマなどの高山植物や西木地区のマリーゴールドで飾られたフラワーロードは、ほかではあまり見られない仙北市ならではの光景といえます。

また、自分たちの楽しみとして家庭で大事に育てられている花、道端に何気なく咲いている花も多く見られ、訪れる方々の気持ちを癒しています。

◇ 市の風景

仙北市は米どころ仙北平野の一角をなしており、ここに広がる田んぼや畑の田園風景、さらに里山や森の緑、清らかに流れる小川などで形作られている景色は、昭和の日本を思わせる、のどかな原風景のように今なお多く残されています。

地元に住んでいる私たちにはなかなか気づかない貴重なこの自然や景観は、四季折々にその姿を変え訪れる人々を迎え入れています。

(2) 食、特産品

◇ 郷土の食

仙北市には、西明寺栗や生保内タケノコなど、質や味で日本一といわれるもの、山や川の自然の恵みで得られる、アユ、イワナなどの川魚や、キノコ、タラの芽、ウドなどの山菜も豊富であり、これを利用した加工品も数多くあります。これら、新鮮な山菜や野菜の直売所も市内各所に点在しており、収穫の時期にはこれを買求める多くの市内外のお客さんで賑わっています。

また、家庭で古くから保存食として用いられてきた、いぶり大根などの漬物や、昔から食されていた、なると餅、えびす餅などのお菓子も、現在は県外でもかなり知られるようになっており、仙北市のお土産品としての地位を確立しています。最近では、菓子業者、商工会の共同により角館饅頭「しこたま」を開発するなど、積極的な取り組みを展開しています。

郷土料理では、きりたんぼ鍋やしょつつる鍋、稲庭うどんが秋田県の郷土料理として飲食店で提供されているところですが、家庭でも来客のもてなし料理などとして食されています。田沢湖地区で発案された山の芋鍋はその独特のこしの強さが好評で、当地の名物料理として定着しています。

◇ 民芸品

仙北市の民芸品は、ヤマザクラ類の樹皮を用い、その光沢を活かした「樺細工」やイタヤカエデの若木を薄く裂き編み込んでいく「イタヤ細工」が有名です。このほかにも、独特の味わいのある白岩焼き、日本の風土に合った桐タンス、風習風土を題材にした手作り土鈴、つる細工など、地元の自然や文化を活かした土産品は観光客に好評を得ています。

現在、「樺細工」に続く土産品のブランド化やオリジナル商品の開発と普及に向けて行政と関係団体が一体となった取り組みを行っています。

(3) まつり、イベント

仙北市には、数百年前から続いている伝統のあるお祭りや地域の方々が主体となった小さなお祭り、全国的にも知られている観光客を呼び込み、市民と共に楽しめるイベントなど、自然や地域の特性を活かしたお祭りやイベントが一年を通して数多くあります。

数あるお祭りやイベントの中で代表的なものあげると、春は花をテーマにした「角館の桜まつり」、「刺巻湿原ミズバショウまつり」、「八津・鎌足かたくり群生の郷」、夏は「たざわ湖まつり」、「戸沢氏祭」、秋は「角館のお祭り」、「抱返り紅葉祭」、冬は、小正月行事の「上桧木内の紙風船上げ」、「角館の火振りかまくら」や「田沢湖高原雪まつり」など、四季折々、その地域に合った多彩な伝統的な祭りが楽しめます。このほか、代々受け継がれている、地域の人たちでつくるお祭り「ぼんでん」や「ささら」には、この地域特

有の歴史、文化が垣間見られます。

また、田沢湖マラソン、田沢湖ツーデーマーチなどの全国的に知られてるスポーツイベントも盛んに行われています。

(4) 歴史、文化

仙北市は、平成17年に角館町、田沢湖町、西木村の3町村が合併して誕生しましたが、古くからこの地域は「北浦」と呼ばれ、同じ生活、文化圏となっており、歴史的、文化的に深いつながりをもっておりました。

この地域が「北浦」と呼ばれるようになったのは、中世南北朝時代以降、南部^{しずくいし}滴石の豪族であった戸沢氏が角館城主となり、秋田安東氏や雄勝小野寺氏と肩を並べる大名になった頃からです。藩政時代に入り、国替えにより戸沢氏がこの地を去った後に入った芦名氏、その後の佐竹北家の時代へと続きます。明治時代の廃藩置県、郡制施行、昭和の市町村合併、そして平成の大合併により仙北市となりました。

歴史ある仙北市には、有形文化財の「草彌家住宅」、「角館伝統的建造物群保存地区」、民俗文化財の「田沢湖のまるきぶね」や「角館祭りのやま行事」などの国指定文化財のほか、「中里のカンデッコあげ行事」や「ささら舞」など他の地域には見られないこの土地の歴史を背景とした特有な行事があります。このほかにも、地域に伝わる郷土芸能、風俗習慣などのこの地に根ざした伝統文化を次の世代に伝えるために、保護、保存や後継者育成に努めているところです。

3 交通アクセス

(1) 道路

秋田市と盛岡市を結ぶ国道46号、秋田県央を縦断する国道105号や田沢湖地区から鹿角市へ抜ける国道341号は、仙北市の骨格道路として位置づけられ、観光客は、この国道を利用して仙北市に入り、各観光スポットへ移動することになります。この3国道は、何れも自然の眺望を満喫しながら走ることができる、観光路線としても申し分のない道路環境です。

また、高速道路も東北自動車道盛岡インターチェンジからはおよそ45分、秋田自動車道大曲インターチェンジからもおよそ30分で仙北市に到着できるという利点があるため、県外の方々をはじめとして高速道路を利用する方が多く見られます。

(2) 鉄道

秋田新幹線の乗降駅が市内には角館駅、田沢湖駅の2つの駅があり、運行数も一日片便20便近く、盛岡駅での乗り換えもなく、首都圏からは僅か3時間余りでアクセスできるなどの利便性が受け、首都圏等からの旅行者の多くが秋田新幹線を利用しています。平成9年の開業時から首都圏等からの旅行客数が大幅に伸びています。

秋田内陸縦貫鉄道は、北秋田市から仙北市を結ぶ、沿線町村の生活、通学路線として平

成元年に開業しました。人口の減少等に伴う影響を受け、利用者数が年々減少していますが、沿線の自然景観や田園風景の美しさが評判となり、観光を目的とした利用者が増加しております。

(3) 航空

秋田空港、花巻空港からは、車や新幹線を利用して1時間余りで仙北市の各観光スポットに着くことができ、首都圏から秋田新幹線を利用した場合とほぼ同じ所用時間で仙北市にアクセスすることができます。大館能代空港からは、車や秋田内陸縦貫鉄道を利用したアクセスも可能となっています。

4 観光の主な課題

仙北市の観光の現状をみると、様々な問題、課題を抱えておりますが、これをひとつずつ解決することにより観光の振興を図る必要があります。

主に次のような課題が明らかになっております。

① 冬期観光客が少ない

一年間に仙北市を訪れた観光客の入り込み数を季節別にみると、4月から5月頃までの春の観光客数は、角館の桜まつりの集客力により、年間観光客数のおよそ半数にあたる、300万人弱という結果が出てます。これに対して、12月から2月にかけての冬期に訪れる観光客は10%にも満たない状況で、年々減少する傾向が現れています。

仙北市の小正月行事に訪れる観光客も最近減少する傾向にあるほか、スキー客の極端な減少が冬期観光客の減少につながっているものと思われます。

② 観光地間のアクセスが不十分

秋田新幹線乗降駅が市内に角館駅、田沢湖駅の2駅あることや秋田空港からも比較的近距离にあるという立地のため、首都圏から短時間でアクセスできるようになってはいますが、市内の観光地から観光地への三次アクセスはまだ十分とはいえない状況です。

また、自動車による旅行者が多いとはいえ、遠方からの観光客は新幹線、飛行機などを利用している方が多いという状況を考えると、公共交通の充実を図り、三次アクセスの利便性を高める必要があります。

③ 情報発信の不足

仙北市のウェブサイト、観光キャラバン、観光パンフレットの提供等により仙北市の旬な観光情報の発信に努めているところですが、仙北市の魅力を適切、正確に相手方に伝わっていない状況であることがアンケート調査の結果などでもうかがえます。

観光情報は、仙北市の魅力を知ってもらい、正確な、観光客のニーズを捉えた、タイムリーな情報を提供することが必要です。この情報の良し悪しが観光客の増減にかなりの影響を与えるものと考えられます。

④ 受入態勢が不十分

観光客に接する際は、おざってたんせの心による温かいおもてなし、接客サービスを心がけているところですが、依然として、市内各所の観光地で、お客様に対しての対応が不十分であるという指摘を受けています。

これは観光客それぞれの評価の基準や好みの違いはあるにしても、これまで以上におざってたんせの意識の高揚を図り、観光客が仙北市で楽しいひとときを過ごすことができるよう努める必要があります。観光客の受入態勢づくりがリピーターを増やす大きなポイントであると思われれます。

⑤ 日帰り、通過型の傾向

仙北市に宿泊される観光客数を県内の他市町村と比較すると、仙北市の宿泊率は12.1%と、秋田県平均の8.5%を大きく上回っています。地区別に見ると角館地区が1.9%、西木地区が1.4%と低い状況であるのに対し、田沢湖地区は25.6%と高く、田沢湖地区が仙北市全体の宿泊率を引き上げている状況です。

しかし、ここ数年宿泊率は漸減しており、日帰り、通過型の傾向が現れています。観光消費額の増加を見込むためにも、宿泊型、連泊型の観光を推進していく必要があります。

観光振興計画体系図

仙北市の将来像

観光産業を活かした北東北の交流拠点都市



数値目標

交流人口1千万人(テンミリオン計画)



基本理念

市民には
観光で潤うまちづくり

観光客には
いつ出かけても、何かある観光のまちづくり



基本方針 キーワード → 「のこす」「いやす」「もてなす」



重点施策

- * やさしさを感じる受入態勢
- * 魅力を伝える観光情報
- * 冬の観光を元気に

エリア別推進
方向

- * 武家屋敷周辺エリア
- * 田沢湖周辺エリア
- * 農山村エリア

施策の基本方向と展開

<p>豊富な観光資源の活用と掘り起こし</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 埋もれている観光資源の発掘 ・ 新たな観光メニューの創出 ・ 観光資源のネットワーク化 	<p>観光基盤の整備と交通の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自然環境、農村風景の保全と歴史文化の継承 ・ 観光施設の整備 ・ きめ細かな交通環境の整備
<p>「おざってたんせの心」による受け入れ態勢づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ホスピタリティの向上 ・ 観光客にやさしい案内 	<p>観光情報の発信と情報の収集</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 訪れたいと思わせる観光情報の発信 ・ 情報の収集とニーズの把握
<p>観光と農林業、商工業の連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地場農産物の活用 ・ 特産品の開発と販路拡大 	<p>ほんものとお出会う体験型観光の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 感動を与える体験と交流 ・ 学習旅行の支援
<p>国際観光の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 外国人向けメニューの開発と情報の発信 ・ 受入態勢の充実 	

計画の推進に向けて

計画推進体制の整備

市民、観光事業者、観光関係団体、行政の協働

問題・課題の解決



主な課題

日帰り、通過型の傾向

冬期観光客が少ない

観光地間のアクセスが不十分

情報発信の不足

受入態勢が不十分

第3章 施策の基本方針と展開

1 基本方針

基本理念に基づき、基本方針を次のとおり定め、これをベースとして施策の展開を図ります。

■ キーワード1 のこす

仙北市の観光を形作っている自然環境や農村風景、歴史・文化は、仙北市にとってかけがえのない財産です。この先人が遺した財産を守り、後世に伝えることは我々の責務であるといえます。

市民一人ひとりが、これを自覚することにより、それぞれの立場、環境でそのできる分野、範囲においてこれらの資源を後世に「のこす」環境づくりを推進します。

また、これらの保護、保存を最優先し、今あるものを自然な形で見せる、体感できる観光を推進し、仙北市にしかない本物の自然、歴史・文化を訪れた人々に提供します。

■ キーワード2 いやす

仙北市には、花や緑といった美しい自然景観をはじめ、温泉、雪、山の幸や人のぬくもりなど、今あるがままで人を「いやす」ことのできる要素がたくさんあります。

訪れた皆さんに癒しの空間を提供するためには、ここに住む人たちがこれらの豊かさを再認識し、残したり、再生する努力をしながら、自らが実感できることが必要です。

観光に直接携わる人だけではなく、すべての産業に携わる人々が一体となり、心身ともに健康で元気になれる、癒される空間を創り出し、これを活かす取り組みを推進します。

■ キーワード3 もてなす

訪れる観光客に仙北市民のあたたかさを肌で感じとってもらえるように、人と人との出会いや交流の中での小さな心配りから、使いやすさ、快適さを心がけた施設の整備に至るまで、各分野全般にわたり、あたたかい細かな気配りを心がけます。

見る人、使う人、相手の目線に立つことによって、普段私たちが気づかないところが見えてきます。いつでも、どこで、だれにでも仙北市全体であたたかく、やさしく訪れる方々を受け入れる「もてなす」心を仙北市の魅力として定着させます。

2 重点施策

仙北市の観光の現状を鑑み、今後取り組むべき観光施策のなかで、特に重点的、優先的に事業を展開する必要がある、次の3つを重点施策として位置づけ、なお一層の取り組みを推進します。

◎ やさしさを感じる受入態勢

観光事業に携わる方たちをはじめ、市民や地域全体で観光客をあたたかく迎え入れる「おざってたんせの心」の醸成と態勢づくりを推進するとともに、親切でわかりやすい案内誘導の方策など、やさしさを感じさせる施設の整備に努めます。

「おざってたんせの心」による施策を展開し、観光客を何度でも訪れたいと思わせることにより、リピーターの増加を図ります。

◎ 魅力を伝える観光情報

市のイメージの定着化と誘客促進のためには、ほしい情報をほしい人にきちんと提供することや、ターゲットを意識した、送り手側の顔が見えるような行き届いた情報発信を行います。

あらゆる手段を駆使して仙北市の魅力ある姿を相手へ正確に伝え、訪れたことのない人でも、自然に仙北市に足が向くような情報の発信に努めます。

◎ 冬の観光を元気に

低迷している冬期における観光客の増加を図ることにより、一年をとおして観光客が訪れる活気のあるまちを目指します。

冬期観光の特長と弱点を洗い出し、その解決策を見いだしながら、冬期観光に関連する種々の施策を更に充実させるとともに、デメリットとして捉えられがちな冬や雪を逆手に取った新たな施策を展開します。

3 エリア別推進方向

仙北市の地域の特性に視点を置くと大きく3つのエリアに分けることができます。それぞれのエリアでは、その特長を活かした取り組みを行ってきましたが、今後も各エリアの特性の違いを最大限に活かしつつ、エリア間の連携を強め施策の展開と振興を図ります。

このため、エリア毎の観光施策を効果的に展開するため、各エリアの施策の推進方向を示します。

① 武家屋敷周辺エリア

角館地区の中で最も多くの観光客が訪れる武家屋敷通り周辺は、国の「角館重要伝統的建造物群保存地区」の選定を受けており、この重要性を再認識しながら以前にも増して建造物の保存や樹木の保護、町並みの保存等に努めていきます。

20年度完成予定の「外町交流広場」を外町のランドマークとして、駅や駐車場からの観光客の流れを外町に誘導し、地域一円を観光客が回遊できる方策を講じながら、商店街の活性化へとつなげていきます。

今後は「武家屋敷」や「桜」といった有名なものだけでなく、角館特有の新たな観光資源の発掘と開発に努め、既存資源と絡めるなどの施策の推進を図ります。

重点的に行う取り組み

- 武家屋敷周辺の環境・景観の保全と歴史文化の継承
- 外町交流広場の活用による外町の活性化
- 角館曳山会館の建設

② 田沢湖周辺エリア

仙北市の中でも秋田駒ヶ岳などの山々や田沢湖、温泉郷などにみられる大自然が最大の魅力である田沢湖周辺エリアは、これら自然を背景とした観光に取り組んできました。今後も自然や豊富な温泉などの魅力を伝えるとともに、体験学習等とを組み合わせた施策などの展開を図ります。

また、当エリアにはスキー場やスポーツセンターなどの施設が充実しており、これらを活用した各種大会や登山、トレッキングなどの自然の中で行うスポーツも盛んに行われております。今後も環境整備を行いながら、スポーツを軸とした観光の振興を図ります。

入り込み数が減少傾向にある田沢湖畔周辺については、観光地の魅力を充分発信するとともに田沢湖の魅力を再認識し、観光施設の整備を図るなど田沢湖を売り込む方策を検討し実行に移します。

このほか、冬期観光客の減少に歯止めをかけ、増加に転ずる方策を講じることにより、観光地の活性化を図ります。

重点的に行う取り組み

- 自然環境、景観の保護、保存
- スポーツ環境の整備
- コンベンション、合宿ゼミの誘致
- 田沢湖畔周辺の整備
- 冬期観光の推進

③ 農山村エリア

豊かな自然環境とのどかな田園風景、あたたかい人情のある農山村地域は今も日本の原風景を思わせる仙北市の貴重な財産といえます。この貴重な景観と環境の保存、保護の取り組みをするとともに、これを影で支えている農業や林業の魅力を伝えるなど、これら産業の育成、支援を推進します。

また、最近体験型観光を目的として訪れる方々が多くなってきていることから、今後もグリーンツーリズムなどの体験型観光の受け皿の整備の充実を図るとともに、農山村地域と都市との交流を促進し、体験型観光の推進拠点として位置づけます。

重点的に行う取り組み

- 農山村の景観や環境の保存、保護
- グリーンツーリズムや体験学習の推進

4 施策の基本方向

(1) 豊富な観光資源の活用と掘り起こし

仙北市の豊富な観光資源の価値を充分引き出すとともに、今まで以上に活かし、新たな特色のある観光メニューを創出します。更に、眠っている観光資源を掘り起こし、磨きをかけることにより観光資源として有用なものとしします。

また、他観光地との連携強化と冬期観光の振興を図り、周遊型、通年型の観光地づくりを推進します。

- ◇ 埋もれている観光資源の発掘
- ◇ 新たな観光メニューの創出
- ◇ 観光資源のネットワーク化

(2) 観光基盤の整備と交通の充実

観光の基盤である、自然環境、景観や歴史、文化の大切さを再認識し、この保護、継承に努めるとともに、観光施設の適正な維持管理、整備充実を図り、訪れる方々が利用しやすい環境づくりを推進します。

また、道路網の整備や交通アクセスを充実させることにより、交通環境の利便性を高めます。

- ◇ 自然環境、農村風景の保全と歴史文化の継承
- ◇ 観光施設の整備
- ◇ きめ細かな交通環境の整備

(3) 「おざってたんせの心」による受入態勢づくり

訪れる人たちと地域の人たちとの交流、心と心のふれあいを通して仙北市の良さを知ってもらうために、もてなしの心の醸成に努めます。

観光資源だけではなく、「おざってたんせの心」により観光客が満足し、また訪れたいと思わせるような受入態勢づくりを推進します。

- ◇ ホスピタリティーの向上
- ◇ 観光客にやさしい案内

(4) 観光情報の発信と情報の収集

仙北市の魅力を正確にきめ細かく相手に伝えることで、情報を得ただけで訪れたいと思わせるような、行き届いた効果的な情報の発信に努めるとともに、積極的な誘客宣伝活動を展開します。

また、観光客のニーズを把握するため、定期的な情報の収集に努め、施策に反映します。

- ◇ 訪れたいと思わせる観光情報の発信

◇ 情報の収集とニーズの把握

(5) 観光と農林業、商工業の連携

観光と農林業、商工業との連携を強化することにより、観光の魅力を高めるとともに全産業の振興を図ります。

これには、地場産農産物等を活用した特産品、お土産品の開発や販路拡大のためのPRに努め、更に他の地域と差別化を図ることにより本市物産のブランド化を推進します。

◇ 地場農産物の活用

◇ 特産品の開発と販路拡大

(6) ほんものとお出でする体験型観光の推進

地場産業の体験や自然体験など、地域の人たちと同じ体験をすることにより、また、本市の歴史、文化を学び理解することにより、地元の人たちとの交流を通して、本市の産業、生活、文化、風土を肌で感じる「ほんものの」「特徴のある」「ほかではまねできない」体験型ツーリズムをめざします。

◇ 感動を与える体験と交流

◇ 学習旅行の支援

(7) 国際観光の推進

海外では見ることのできない日本固有の自然や景勝、歴史、文化のほか、仙北市にしかない魅力ある観光資源を積極的にPRするとともに、外国人に特化したメニューづくりを推進します。

さらに、外国人が気軽に、容易に旅行できるような案内や施設の整備など受入態勢を整えます。

◇ 外国人向けメニューの開発と情報の発信

◇ 受入態勢の充実

5 施策の展開

(1) 豊富な観光資源の活用と掘り起こし

① 埋もれている観光資源の発掘

■ 魅力を再認識する

仙北市は、豊かな自然、歴史文化が多く残されております。四季折々の花、里山の風景、お祭りなど代々受け継がれてきた魅力は、日常生活の中にあるため、その良さに気付かないこともあります。今ある魅力を仙北市民全体で再認識し足元を見つめ直すことが必要です。今まで行ってきたイベント、事業等を振り返り見直しを行います。

【施策事例】

- ・ 市民への観光アンケート調査
- ・ イベントの見直しと年間計画表の作成
- ・ 地域の行事、お祭り暦の作成
- ・ 魅力ある仙北市の写真募集と写真展の開催

■ 眠っている魅力を掘り起こす

仙北市には、地元の人でも気づいていない資源があります。自然景観、名所、旧跡や地域の良さを残した伝統的なお祭りや、この地で伝統を受け継いできた人、職人、語り部、案内人など、これら眠っている魅力を掘り起こします。

また、桜、ミズバショウ、カタクリは、現在知られている場所以外にも自生、群生箇所が見られることから、これらの調査を行います。

【施策事例】

- ・ 自然景観、地域の行事、お祭り等の発掘調査
- ・ 語り部案内人等の発掘、育成
- ・ 観光アドバイザーの設置
- ・ リーダー的人材の育成

② 新たな観光メニューの創出

■ いつでも楽しめる魅力を創り出す

仙北市にある魅力に、それぞれの季節感、特長を活かしたモデルコースの設定やイベント等を積極的に企画、実行します。

また、デメリットとして捉えられている雪・冬を観光の主役として位置づけ冬期の魅力を増進させ、通年型観光をめざします。このほか、団塊の世代をはじめとした各年代別に

楽しめるコースや、仙北市の魅力をじっくり、ゆっくり味わっていただけるメニューづくりを行います。

【施策事例】

- ・ 季節、目的、年代別の観光モデルコースの開発
- ・ 目的別マップの作成
- ・ 宿泊、連泊型商品の開発
- ・ ホワイトツーリズムの推進

■ 新しい魅力を創り出す

仙北市にある魅力を見て、体験し、今以上に楽しんでいただける工夫をします。現在行われているお祭りに準備段階から参加できる体制をつくり、地域の人々との交流を深める機会を設けます。

また、コンベンションや合宿ゼミの受け入れや、桜木や田んぼのオーナー制度を実施することにより、仙北市と観光客の結びつき、繋がりを深め、何度も訪れていただける機会をつくりまします。

【施策事例】

- ・ 参加型お祭りの実施
- ・ コンベンション、合宿ゼミの誘致
- ・ 桜木や田んぼ等のオーナー制度の実施

③ 観光資源のネットワーク化

■ 市内をめぐる

仙北市には、同じような性格の魅力ある資源が点在しています。例えば桜は市内の各所に見られますが、花の見ごろは違ってきます。訪れた方へ見ごろの場所を順番に案内することによって、長い期間楽しんでいただけるとともに、新しい発見や出会いの機会を作ります。

そのためには観光地間のネットワークを構築し、情報の共有や繋がりを強固にして、訪れた方が隈なく市内を周遊できる体制を構築します。

【施策事例】

- ・ 周遊コースの設定
- ・ スタンプラリー等の実施
- ・ 観光地間の連携強化

■ 県内外をめぐる

仙北市をさらに魅力のある観光地にするためには、仙北市だけではなく大曲仙北地域、秋田県、東北の魅力を高めることが必要です。一つでは小さい誘客力でも、まとめれば大きな力になることから、今後も広域観光の推進を目的とした団体により、近隣の県や他自治体との連携を強化します。

【施策事例】

- ・ 広域観光協議会の活動促進
- ・ 他観光地とのネットワークの形成
- ・ 広域観光コースの開発

(2) 観光基盤の整備と交通の充実

① 自然環境、農村風景の保全と歴史文化の継承

■ 景観を守り、育てる

仙北市の大きな魅力の一つは自然の景観です。田んぼや萱葺き屋根のある空間を「今のまま」残し、景観を構成する要素を適切に管理しながら必要な部分は整備を行い景観を守ります。そして、住んでいる人々が地域の景観の良さに気づき誇りを持って、自然景観や農村風景を守ることの大切さを啓発します。

また、自然景観に配慮した、景観に溶け込むような花の植栽、緑化活動など、地域を花や緑で飾る活動を推進します。

【施策事例】

- ・ 自然景観の保護と整備
- ・ 農村風景の保存啓発
- ・ 建造物の保存
- ・ 花や緑のまちづくり

■ 環境を守る

環境を守ることは、それを支えている自然を守ることです。普段の生活の中でゴミを出さないことや水源を守ることなど、そこに住んでいる一人ひとりが環境に対する意識の高揚を図る必要があります。

武家屋敷周辺では地域が主体となった清掃活動によるゴミのないきれいな環境づくりが、訪れる方々から好感をもたれています。地域の協力を得ながらこのような清掃活動の輪を広げるなど、環境を守る活動とゴミのない美しいまちづくりを推進します。

【施策事例】

- ・ 自然環境保護の啓発
- ・ ゴミのないまちづくりの啓発
- ・ クリーンアップ、ゴミ持ち帰り運動の実施

■ 文化財を守る

仙北市の文化財は、わが国を代表する文化財として、その重要性を再認識し、今まで以上に保護保存に努めるとともに、無形民俗文化財の保護や後継者対策、他地域に無い民俗文化財の記録保存についての取り組みも推進します。

また、武家屋敷周辺では、年々飲食店、土産物店等が増加するなど保存地区内の景観等に変化が見られることから、本物の武家屋敷景観が損なわれないよう地域住民との対話を大切にし、保存整備を進めます。

【施策事例】

- ・ 文化財の保護と後継者の育成
- ・ 埋蔵文化財の調査と保存
- ・ 桜の保護管理と武家屋敷の樹木剪定管理
- ・ 歴史文化を守る活動団体への支援

■ ふるさとを守る

自然景観や歴史文化は、先人から代々受け継がれてきた宝です。これを子供たちや次の世代に受け継がせるために、ふるさとの良さ、歴史を伝えていくことが大切です。学校や、地域の中で子供たちが地域の歴史文化を学び、ふるさとの良さを感じ取れる機会を作りサポートしながら、郷土に誇りを持ちふるさとを思う心を育てます。

【施策事例】

- ・ ふるさとの良さや歴史の教育

② 観光施設の整備

■ 駐車場、トイレ、案内板を整える

駐車場やトイレの良し悪しは、観光客へ与える印象が大きいことから、気持ちよく利用できる方を講じます。このため、施設の清潔快適さを保つとともに、老朽化している施設の維持改修についても利便性を考慮しながら整備を進めます。

このほか、観光案内板や説明板についても利用者に対してわかりやすさと見やすさを心がけ、適切な配置や整備を進めます。

【施策事例】

- ・ 駐車場や公衆トイレの調査、整備
- ・ 案内板や説明板の調査、整備

■ 観光施設を整える

仙北市内には遊歩道、登山道、サイクリングロードや資料館など様々な施設があります。中には老朽化している施設もあり、観光客が安全に楽しく施設を利用できるように適正な維持管理を行うとともに、設備や内容も何回来ても飽きさせないよう内容の充実と更新を図ります。

また、長時間滞在していただくために、角館のお祭りをメインにした体験型観光施設の建設に向けた取り組みや、田沢湖畔、かたまえ山周辺などの整備を推進します。

【施策事例】

- ・ 観光施設の適正な維持管理と機能の充実
- ・ 角館曳山会館（仮称）等の建設

■ 誰にでもやさしいまちをつくる

観光客の中には、最近お年寄りや体に障害をもった方々が増えてきております。こうした方々のためのトイレや駐車場などのバリアフリー化は進めてきてはおりますが、まだ十分ではありません。

これからもお年寄りや障害者の皆さんが楽しく、安全に観光ができるように観光施設のバリアフリー化を推進します。

【施策事例】

- ・ 観光施設バリアフリー化調査
- ・ 道路や観光施設の段差解消
- ・ 高齢者、障害者が安心して利用できる休憩所の整備
- ・ 車いすの配備促進

③ きめ細かな交通環境の整備

■ 交通環境を整える

国道、県道等の幹線道路、市道の整備は順次進んでいますが、引き続き国道、県道の改良促進について関係機関に要望を行っていきます。

また、目的地までの交通情報を的確に旅行者に提供するための案内システムや駅、空港からのモデルコース、参考料金を設定するなど、わかりやすく旅行しやすい交通環境を推進します。このほか、観光客の利便性、快適性を高めるため路線の見直しと新たな観光ル

ートの開発に努めます。

【施策事例】

- ・ 国道、県道の改良要望
- ・ 道路交通情報の提供
- ・ 公共交通機関を利用したモデルコースの設定
- ・ 新たな観光ルートの開発

■ 三次交通を整える

仙北市内の観光地と観光地を結ぶ三次アクセスは公共交通機関が主な手段ですが、これは訪れる方のみならず、地域に密着した足であり、利用しなければ無くなる恐れがあります。

地域の足を守るための公共交通機関の利用促進と、利便性の高いタクシーの低料金化等を促す取り組みを推進します。また、事業者が行う、観光地間を結ぶバス運行事業等への支援も引き続き行います。

【施策事例】

- ・ 公共交通機関の利用促進
- ・ タクシーの低料金化促進
- ・ 企画バス等への支援

■ 秋田内陸縦貫鉄道を活用する

秋田内陸縦貫鉄道は、仙北市と北秋田市を結ぶ重要な交通機関であると同時に、沿線は自然豊かで四季のすばらしい景色を車窓から眺めることができるなど、魅力ある観光資源です。

乗車人数が減少する中で、観光を目的とした利用者数の割合は年々増えているため、秋田内陸線の利用促進と魅力を活用した誘客に努めます。

【施策事例】

- ・ 秋田内陸縦貫鉄道沿線関係団体との連携
- ・ 秋田内陸縦貫鉄道乗車運動の促進

(3) 「おざってたんせの心」による受入態勢づくり

① ホスピタリティーの向上

■ 心でもてなす

訪れた方に、「来て良かった」と思っていたくためには、日頃から飾らない自然な形でのおもてなしの気持ちを表すことが重要です。訪れた方に対して仙北市や地元の人々がよい印象を与えることは、リピーターの増加として跳ね返ってきます。

ホテル、旅館、お土産店など直接観光客と接する観光事業者だけではなく、仙北市一丸となった「おざってたんせの心」による接客マナーの向上を図ります。

【施策事例】

- ・ 接客マナー講習会の開催
- ・ 接客に関するガイドラインの設定

■ 食でもてなす

旅行先での楽しみに「食べる」ことがあります。おいしい、珍しい食べ物に出会ったときの感動は、長く印象に残り周りの人に伝えたくくなります。このため、食事の良し悪しでその食事を提供した施設や観光地のイメージも変わり、リピーターや新規観光客の増減につながっていきます。

地場産の食材を使用した料理、郷土料理などほかの地域では味わえない食事の提供に努めることにより「食」でのおもてなしができるよう、宿泊施設など食事提供施設への協力と支援を行います。また、地元食材を使ったお店が一目でわかる制度を創設します。

【施策事例】

- ・ 地場産食材の使用普及
- ・ 地場産食材、特産物を活用したイベントの開催
- ・ 地場産食材を使用した飲食店の認定制度の実施
- ・ 郷土料理の開発と普及

② 観光客にやさしい案内

■ 市民総出で案内する

初めて来たまちで地元の人たちが気軽にあいさつをしたり、尋ねられたことには親切丁寧に応えたりすることで、市民のあたたかい気持ちが相手に伝わります。

こういう気持ちをもって、観光客から何を尋ねられても答えられる、更に一歩進んで案内や地元をPRできる、市民一人ひとりが観光案内人と称されるように努めます。

また、今までの観光パンフレットは観光客サイドに立ったものでしたが、市民が観光客に適切にわかりやすく案内できるような、ガイドブック、マップを作成します。

【施策事例】

- ・ 市民への旬な観光情報の提供
- ・ 市民向けガイドブック、マップの作成
- ・ 市民地元を知る観光講座の開催

■ 観光ガイドを育てる

武家屋敷を中心に、まちの歴史や文化を説明しながら観光客を案内する「歴史案内人」や秋田駒ヶ岳や乳頭山など、北東北の山々をガイドする「山の案内人」が活躍しています。

こうした方々のほかにも地元の歴史、農業や林業、商工業などの分野に精通した方々、あるいは福祉の面などで活躍している方々がたくさんおります。こうした方々を見い出して観光ガイドとして育成、支援を行います。

【施策事例】

- ・ 観光ガイドの育成と支援

■ 安心、安全なまちをつくる

訪れた方にとって、旅行中事故に遭わず病気や怪我をすることもなく無事家に帰ることは何よりも重要なことです。迎え入れる側でも訪れた方が安心して観光地を安全に巡ることができるよう最善の配慮をすることが必要です。

見知らぬ場所での急病や事故、また、地震、火災など不測の事態に備え観光客が安心して観光できるようなまちづくり、態勢づくりを推進します。

【施策事例】

- ・ 武家屋敷通り歩行者安全対策
- ・ AEDの適正な配備
- ・ 観光地、観光施設での避難訓練

(4) 観光情報の発信と情報の収集

① 訪れたいと思わせる観光情報の発信

■ いろいろな形で情報を発信する

仙北市ウェブサイトを手前に情報発信手段として活用します。こちらからの一方的な情報の発信だけでなく、相手方からの情報もいただく手法や海外の外国人をターゲットとしたウェブサイトの充実を図ります。

また、多くの方々に観光情報を発信するためには、マスメディアを最大限に利用することが最大の方策です。あらゆる機会、あらゆるマスメディアを利用した情報の発信に努め

ます。

【施策事例】

- ・海外向けウェブサイトの強化
- ・マスメディアへの最新情報の提供
- ・フィルムコミッションへの支援

■ いつでもどこでも情報を提供する

今まで観光情報の提供を行っていたホテル、旅館、お土産店のほか、観光客が立ち寄るコンビニエンスストア、ガソリンスタンドなどをはじめとするすべての業種を対象とした店舗に協力をいただき、市内どこでも、いつでも観光情報を手に入れることができるシステムづくりを構築します。

また、首都圏に仙北市の観光、物産等のPRのためアンテナショップの整備を検討し、首都圏での仙北市ブランドの確立と知名度アップ、観光情報の提供、収集を行います。

【施策事例】

- ・観光情報ネットワークの構築
- ・仙北市首都圏PRセンターの設置

■ 仙北市の知名度をアップさせる

仙北市誕生から2年余りになりますが、「仙北市」の名前は、仙北市から距離が遠くなるにつれ知名度が薄れていき、首都圏では全く無名であるといわざるを得ません。

「仙北市」は、今後徐々に浸透していくと思われませんが、誘客や商品の販売、宣伝のためにも、「仙北市」の知名度アップを図る必要があります。

今後は、あらゆるとき、ところで「仙北市」の名を売り込み、また、「仙北市」と「角館」、「田沢湖」、「西木」の名をそれぞれの状況に応じて使い分ける必要があると考えられます。

【施策事例】

- ・商品等への「仙北市」と「角館」、「田沢湖」、「西木」の併記
- ・地区別ポスターの統一化によるPR
- ・マスコットとキャッチフレーズの作成

■ 観光サポーターを募集する

仙北市の観光に関心を持っている方や観光の振興に熱意を持った方、首都圏等在住の市出身者など、広く市内外から「観光サポーター」として協力できる方を募集、登録し、仙北市の観光情報の発信、収集と観光宣伝やイベントのボランティア等を努めていただきます。

また、市出身の有名人や全国的な著名人への観光大使の任命や観光レディーの募集を行

い、観光キャラバンなどの観光宣伝事業を展開します。

【施策事例】

- ・観光サポーターの募集
- ・観光大使や観光レディーの募集
- ・観光大使等による観光キャラバン

② 情報の収集とニーズの把握

■ ニーズを把握する

観光客が仙北市に何を求めているのかを正確に把握し、これを施策に反映することが、「行ってみたい、また行きたい」という方々を増やすことにつながると考えられます。この情報の収集と分析は、観光施策や情報の提供と密接な関係にあります。

このため、アンケート調査をはじめできる限りの方法で、観光客、観光に関心のある方、ない方などから継続的に情報を収集し、その分析を行い施策に反映します。

【施策事例】

- ・インターネットによるアンケート調査と分析
- ・観光客や観光業者等へのアンケート調査と分析

(5) 観光と農林業、商工業の連携

① 地場農産物の活用

■ 農産物のPRと販売を促進する

安全安心な農産物の生産供給や地産地消の動きが活発化している中で、仙北市を訪れる方はもちろん、積極的に宿泊施設や飲食店へ提供することなどにより、地場産農産物の新たな販路開拓に努めます。

また、仙北市の農産物をインターネット等で積極的にPRするとともに、販売を希望する農産物の情報を提供するデータベースの設置やネット販売についても検討を行います。

【施策事例】

- ・インターネット、イベント等を活用したPR活動
- ・認定農業者団体による「自ら生産した仙北ブランド農産物」の販売活動
- ・認定農業者、飲食店、宿泊施設へのアンケート調査
- ・「山の楽市」など県内外のイベント、物産展への出店
- ・農産物生産情報データベースの設置やネット販売

■ スローフード、地産地消を推進する

仙北市を訪れる方には、直売所での地場産農産物の販売や、宿泊・飲食施設等への食材を提供することにより、これからも本市農産物の質の良さをアピールしていきます。

また、農産物の直売所は、価格、安全、新鮮さを求める観光客や地元の方々から好評を得ていますが、今後、各直売所の置かれている現状を把握するため、懇談会等を開催することにより、情報の共有や意見交換を行いながら積極的な販売の促進とPRに努めます。

【施策事例】

- ・ 農産物直売所、飲食店、宿泊施設へのアンケート調査
- ・ 地場産農産物を提供する飲食店・宿泊施設の拡充
- ・ そば打ち体験施設や手打ちそばを提供する店のネットワーク化とPR
- ・ 農産物直売所・加工施設の新規開設等への支援
- ・ 農産物直売所マップによる情報発信とイベントの開催

② 特産品の開発と販路拡大

■ 特産品の販路を拡大する

特産品の販路拡大については、県内外で行われる催事や物産展への参加などを通して一定の成果を上げていますが、引き続き特産品を活用した「仙北市の魅力」を広く県内外に発信する宣伝活動に取り組んでいきます。

また、首都圏における本市物産と観光PR機能を担うアンテナショップは、今後の販路拡大のためには必要不可欠な施設であると考えられますが、施設の整備には多額の経費を要するため、運営の形態や設置場所等について十分検討しながら進めます。

【施策事例】

- ・ 特産物販売促進対策
- ・ 仙北市首都圏PRセンターの設置

■ 特産品を開発しブランドを確立する

仙北市には、樺細工やイタヤ細工などの優れた特産品や地元の自然・文化を活かした観光土産品が数多くあります。今後、樺細工に続く観光客をはじめ、市民にも喜ばれる特産品やオリジナル商品の開発に取り組んでいきます。

また、地域の特性を活かした、ここにしかない農産物、優れた商品などをブランドとして確立し、これら仙北市発の商品・サービスのブランド化を通じ、地域経済の活性化につなげる取り組みを推進します。

このほか、地場産農産物を使用したアイデア料理や加工食品を募集するなど、新メニ

ューの開発と特産品の使用拡大を図ります。

【施策事例】

- ・ 仙北市推奨の物産認証制度の創設
- ・ 特産品開発事業の支援
- ・ 特産品料理コンクールや料理教室の開催

(6) ほんものと出会える体験型観光の推進

① 感動を与える体験と交流

■ グリーンツーリズムを推進する

仙北市では、これまで農林業体験、トレッキング、山菜取りなどの体験ツアーが盛んに行われており、県内でも先進的な地域となっています。

今後さらに受け入れ団体の連携を図るために組織強化と、インストラクターの養成、仙北市の持つ自然、歴史、文化、温泉などの多様な資源を活用した体験プログラムを創設し仙北市型ツーリズムの確立と定着を図ります。

【施策事例】

- ・ 関係団体の連携強化
- ・ 農業、林業、食、歴史等や長期滞在型の体験型観光メニューの設定
- ・ 体験別インストラクターの養成
- ・ 都市と農村交流の推進

■ 広域的体験型ツアーを推進する

隣接する大仙市、美郷町、北秋田市、岩手県雫石町等との連携のもとに、それぞれの持つ観光資源や歴史遺産、体験施設等を掘り起こし、お互いの情報提供とその活用を検討し体験ツアー推進体制の確立を図ります。

そして広域的なサイクルツーリングコース等の設定により、地域住民とのふれあいを図る体験型ツアーを推進します。また、秋田内陸縦貫鉄道の利用を組み込んだ体験ツアーコースを設定し、北秋田市や白神山地を含んだ県北部との交流を促進します。

【施策事例】

- ・ 体験ツアー推進体制の構築
- ・ サイクルツーリングコース等の設定
- ・ 内陸線を活用したツアーコースの設定

② 学習旅行の支援

■ 受入先農家等を育成し支援する

仙北市の体験学習には、関係機関の協力により20を超えるメニューが用意されていますが、利用されているメニューに偏りがあります。また、受入農家が不足していることや職人による体験学習の指導者の高齢化や後継者不足などの課題も抱えております。

このため、グリーンツーリズム関係団体、先駆団体との連携や、アンケート調査による意識調査などを踏まえ、受入れ先農家等の開拓や体験メニューの整備を図ります。

【施策事例】

- ・ 受入農家等の開拓
- ・ 体験メニューの整備

■ 体験場所を整備する

学習旅行は自然と触れ合う体験に人気があり、最近では林業体験が注目されています。枝打ちや下刈り、また山菜取りなどは山林での作業であり、その場所の確保、整備が必要になります。

市や財産区の山林等を体験学習の場開放し、要望のあった体験学習への提供に努めるとともに、山菜自生地を確保するため、地域や関係団体との協力体制を構築し体験場所の整備を図ります。

【施策事例】

- ・ 山林等体験学習場所の整備
- ・ 地域住民との協力体制の構築

(7) 国際観光の推進

① 外国人向けメニューの開発と情報の発信

■ 外国人が求める魅力を創り出す

外国人は、その国それぞれ多種多様なニーズをもっているため、日本や仙北市の観光に求めるものは異なっています。外国人のニーズを正確に把握し、これを踏まえた上で、国別の外国人向けモデルコースを開発し積極的にPRします。

特に、最近増加している中国、台湾、韓国からの観光客は、温泉やスキーに興味を持っている方が多く、冬期もこれを目的とした観光客が訪れています。外国人が冬期観光推進の救世主と成り得る可能性は十分にあることから、冬期観光の誘客面からも外国人向けのモデルコースづくりを推進します。

【施策事例】

- ・ 国別モデルコースの設定
- ・ 冬期モデルコースの設定

■ 大学等と連携を図る

ノースアジア大学との観光に関する連携協定に基づき、同大学や他の大学等とも協働により国際観光の推進を図ります。

外国人教師や留学生からの協力を得て、海外や外国人観光客からの情報の収集、海外への情報発信を行うことにより外国人観光客の誘客を図ります。

また、大学等の学生や留学生の語学力を活かした、英語、中国語、韓国語による外国人観光客との通訳、観光事業者等への基礎的な外国語習得、ガイドブックの作成に関する取り組みを行います。

【施策事例】

- ・ 観光アンケート調査
- ・ 観光客に対する通訳の支援
- ・ 学生による外国語講座
- ・ ガイドブックの作成

■ 海外に情報を発信する

外国人観光客のリピーターを増やすとともに、まだ仙北市を訪れたことのない外国人に対して仙北市の魅力をPRするための情報発信を行い、新規外国人観光客の誘客に努めます。

また、日本在住の外国人、近隣の観光地を訪れている観光客を更に仙北市まで足を伸ばしてもらうための広域的周遊観光を図るため、近隣観光地や空港での宣伝活動、海外の外国人に対する魅力的な情報の発信を行います。

【施策事例】

- ・ 主要空港でのPR活動
- ・ インターネットによる海外向け情報の発信
- ・ 海外マスコミ、旅行エージェントへのPR活動の強化
- ・ 海外見本市等への参加

■ 海外友好関係都市等と協力する

仙北市や民間団体等と友好関係にある海外の都市とは、更に友好的な関係を強固なものにするため、交流の促進を図るとともに民間団体の交流促進について支援を行います。

更にこれを足掛かりとして友好関係にある都市だけではなく近隣都市まで観光誘客の輪

を広げ誘客促進を図ります。

これには、仙北市だけではなく、秋田県、近隣市町、観光関係団体等と連携した海外での誘客宣伝活動などの誘客事業を推進します。

【施策事例】

- ・ 海外友好都市観光キャラバン

② 受入態勢の充実

■ わかりやすい案内をする

外国人観光客向けパンフレット、マップとして、日本人向けと同等のものや旅行目的に適合した目的別のものが必要であると考えられます。

海外から来た観光客が、一人だけでも観光パンフレットひとつで、楽しく容易にまちを巡ることができるような観光ガイドブックを作成します。

また、道路や公共施設の案内看板のみならず、民間観光事業者の看板等にも、英語だけではなく中国語、韓国語など数カ国語での併記の協力を要請し、外国人受入態勢の推進を図ります。

【施策事例】

- ・ 目的別ガイドブックの作成
- ・ 道路案内看板や店舗等看板の数カ国語併記

■ 外国語ができる人材を育成する

仙北市には、数カ国から百人以上の外国人が居住しており、在市場外人の中には日本語が堪能な方もおります。

こういう在市場外人や市民の中で外国語のできる方々、大学の学生等からの協力をいただき、市民やホテル、旅館、お土産店など直接外国人観光客と「ことば」を交わす方たちが、外国人に観光案内ができる必要最小限の語学力習得のための取り組みを行います。

【施策事例】

- ・ 市民、観光事業者向け外国語講座や接遇研修

第4章 計画の推進に向けて

1 計画推進体制の整備

市民や観光事業者、観光協会をはじめとする観光関係団体、行政とは、いろいろな分野でその目的、施策ごとに互いに協力し合い事業を進めています。

今後は、行政と観光関係団体等との連携を更に強固なものにし、共に仙北市観光の進むべき方向の意思を統一することが必要です。このため、施策を進める上で市の観光全般を総括する、総合的な体制の構築による観光関係団体間のネットワークづくり、また、市内外に正確な情報を提供するためにも情報共有化のシステムづくりを推進します。

また、計画の的確な進行管理や社会情勢の変化に沿った計画の見直しを行うためには、計画の検証が不可欠なことから、定期的に計画の進行状況の検証を行う組織体制を充実させます。

2 市民、観光事業者、観光関係団体、行政の役割

計画を着実に実行、推進するためには、「市民」、「観光事業者」、「観光関係団体」、「行政」がそれぞれの役割をもち、これを理解し、個々の役割を責任をもって果たすことによってはじめて成果が出てきます。

▲ 市民に求めるもの

市民一人ひとりが仙北市を「観光のまち」として認識し、自分たちも観光に関わり、担うという意識をもつことが必要です。観光客を温かく迎え入れる気持ちと観光事業に自ら積極的に取り組む心を持ち、市民全体で観光振興の推進を図ります。

また、自分たちの住んでいる市や地域の自然や歴史、文化などを学習し、市民一人ひとりが観光案内人となれるよう努力するとともに、地域のまちづくりは、「観光」を支えているという認識に立って、コミュニティー活動に積極的に参加します。

▲ 観光事業者を求めるもの

観光に携わる者の中で、ホテル、旅館、飲食店、お土産店などの観光事業者は市民やほかの団体と比較し観光客と直接関わるが多いため、この方たちの接客サービスが市のイメージを大きく左右すると考えられます。

このため、日頃から「おざってたんせの心」を大切にしたい、質の高いサービスを提供するよう心がけることが必要です。

これには、接遇の研修などによる人材の育成に努めるとともに、観光事業者間の連携を強めることが必要です。

▲ 観光関係団体に求めるもの

観光協会や商工会など各観光関係団体間の連携を強化するとともに、観光事業者からの観光振興に寄与する意見の吸い上げ、取りまとめを行い、組織の強化、活動の充実を図り

ます。

また、市と協働のもと観光振興施策の展開を図るとともに、積極的に観光客の誘致に努めるため、効果的な誘客宣伝活動や観光情報の提供などのほか、自主的、個性的な取り組みが望まれます。

このほか、市の三観光協会は組織、事業の効率的な運営やサービスの提供を行うため、今以上に連携を深め、さらに各団体の特長を活かし独自性を発揮した施策進めるとともに、一体的に取り組める体制づくりの構築が望まれます。

▲ 行政の役割

観光振興の推進、舵取り役として、市民、観光事業者、観光関係団体等との連携を基本に、各団体間との協議、調整を行うとともに、総合的な施策の展開、個性的な観光地づくりを推進します。

また、市民や観光関係団体等が観光事業を容易に行えるような環境づくりの整備や市民や観光関係団体等への積極的な支援を行うほか、国や県へ観光関係団体等の意見を取りまとめながら観光政策の要望や提案を行います。

3 施策の推進プログラム

事業着手時期を定めることにより、施策の適正な執行と計画期間内の事業完成を目指します。

計画期間19年度から27年度を前期、中期、後期の各3年に分け、中期最終年度24年度までには全ての事業に着手します。

前期	19から21年度までに着手する事業や現在取り組んでいるもの
中期	22から24年度までに着手する事業

項 目		事 業	着手時期	
			前期	中期
1 豊富な観光資源の活用と掘り起こし	① 埋もれている観光資源の発掘	市民への観光アンケート調査	○	
		イベントの見直しと年間計画表の作成		○
		地域の行事、お祭り暦の作成	○	
		魅力ある仙北市の写真募集と写真展の開催	○	
		自然景観、地域の行事、お祭り等の発掘調査		○
		語り部案内人等の発掘、育成		○
		観光アドバイザーの設置		○
		リーダー的人材の育成		○
	② 新たな観光メニューの創出	季節、目的、年代別の観光モデルコースの開発	○	
		目的別マップの作成	○	
		宿泊、連泊型商品の開発	○	
		ホワイトツーリズムの推進	○	
		参加型お祭りの実施		○
		コンベンション、合宿ゼミの誘致	○	
	③ 観光資源のネットワーク化	桜木や田んぼ等のオーナー制度の実施		○
		周遊コースの設定	○	
		スタンプラリー等の実施	○	
		観光地間の連携強化	○	
		広域観光協議会の活動促進	○	
		他観光地とのネットワークの形成		○
2 観光基盤の整備と交通の充実	① 自然環境、農村風景の保全と歴史文化の継承	広域観光コースの開発		○
		自然景観の保護と整備	○	
		農村風景の保存啓発	○	
		建造物の保存	○	
		花や緑のまちづくり	○	
		自然環境保護の啓発	○	
		ゴミのないまちづくりの啓発	○	
		クリーンアップ、ゴミ持ち帰り運動の実施	○	

項 目		事 業	着手時期	
			前期	中期
		文化財の保護と後継者の育成	○	
		埋蔵文化財の調査と保存	○	
		桜の保護管理と武家屋敷の樹木剪定管理	○	
		歴史文化を守る活動団体への支援	○	
		ふるさとの良さや歴史の教育		○
	② 観光施設の整備	駐車場や公衆トイレの調査、整備	○	
		案内板や説明板の調査、整備	○	
		観光施設の適正な維持管理と機能の充実	○	
		角館曳山会館（仮称）等の建設		○
		観光施設バリアフリー化調査	○	
		道路や観光施設の段差解消		○
		高齢者、障害者が安心して利用できる休憩所の整備		○
		車いすの配備促進	○	
	③ きめ細かな交通環境の整備	国道、県道の改良要望	○	
		道路交通情報の提供		○
		公共交通機関を利用したモデルコースの設定	○	
		新たな観光ルートの開発	○	
		公共交通機関の利用促進	○	
		タクシーの低料金化促進	○	
		企画バス等への支援	○	
秋田内陸縦貫鉄道沿線関係団体との連携		○		
秋田内陸縦貫鉄道乗車運動の促進	○			
3 「おざってたんせの心」による受入態勢づくり	① ホスピタリティーの向上	接客マナー講習会の開催	○	
		接客に関するガイドラインの設定		○
		地場産食材の使用普及	○	
		地場産食材、特産物を活用したイベントの開催	○	
		地場産食材を使用した飲食店の認定制度の実施	○	
		郷土料理の開発と普及	○	
	② 観光客にやさしい案内	市民への旬な観光情報の提供	○	
		市民向けガイドブック、マップの作成		○
		市民地元を知る観光講座の開催		○
		観光ガイドの育成と支援		○
		武家屋敷通りの歩行者安全対策		○
		AEDの適正な配備	○	
		観光地、観光施設での避難訓練	○	

項 目		事 業	着手時期	
			前期	中期
4 観光情報の発信と 情報の収集	① 訪れたいと思わせ る観光情報の発信	海外向けウェブサイトの強化		○
		マスメディアへの最新情報の提供	○	
		フィルムコミッションへの支援	○	
		観光情報ネットワークの構築		○
		仙北市首都圏PRセンターの設置	○	
		商品等への「仙北市」と「角館」、「田沢湖」、「西木」の併記	○	
		地区別ポスターの統一化によるPR	○	
		マスコットとキャッチフレーズの作成	○	
		観光サポーターの募集		○
		観光大使や観光レディーの募集		○
		観光大使等による観光キャラバン		○
	②情報の収集とニ ーズの把握	インターネットによるアンケート調査と分析	○	
	観光客や観光事業者等へのアンケート調査と分析	○		
5 観光と農林業、商 工業の連携	① 地場農産物の活用	インターネット、イベント等を活用したPR	○	
		認定農業者団体による「自ら生産した仙北ブラン ド農産物」の販売活動	○	
		認定農業者、農産物直売所、飲食店、宿泊施設へ のアンケート調査	○	
		「山の楽市」など県内外のイベント、物産展への出展	○	
		農産物生産情報データベースの設置やネット販売		○
		地場産農産物を提供する飲食店、宿泊施設の拡充	○	
		そば打ち体験施設や手打ちそばを提供する店のネ ットワーク化とPR		○
		農産物直売所、加工施設の新規開設等への支援	○	
	② 特産品の開発と販 路拡大	農産物直売所マップによる情報発信とイベントの開催	○	
		特産物販売促進対策	○	
		仙北市首都圏PRセンターの設置	○	
		仙北市推奨の物産認証制度の創設		○
		特産品開発事業の支援	○	
		特産品料理コンクールや料理教室の開催	○	
6 ほんものとお出 会い体験型観光の推 進	① 感動を与える体験 と交流	関係団体の連携強化	○	
		農業、林業、食、歴史等や長期滞在型の体験型観 光メニューの設定	○	
		体験別インストラクターの養成		○
		都市と農村交流の推進	○	
		体験ツアー推進体制の構築		○

項 目		事 業	着手時期	
			前期	中期
		サイクルツーリングコース等の設定		○
		内陸線を活用したツアーコースの設定	○	
	② 学習旅行の支援	受入農家等の開拓	○	
		体験メニューの整備	○	
		山林等体験学習場所の整備		○
		地域住民との協力体制の構築	○	
7 国際観光の推進	① 外国人向けメニューの開発と情報の発信	国別モデルコースの設定	○	
		冬期モデルコースの設定	○	
		観光アンケート調査	○	
		観光客に対する通訳の支援		○
		学生による外国語講座		○
		ガイドブックの作成		○
		主要空港でのPR活動		○
		インターネットによる海外向け情報の発信		○
		海外マスコミ、旅行エージェントへのPR活動の強化		○
		海外見本市等への参加		○
		海外友好都市観光キャラバン		○
		② 受入態勢の充実	目的別ガイドブックの作成	○
	道路案内看板や店舗等看板の数力国語併記		○	
	市民、観光業者向け外国語講座や接遇研修		○	

資 料 編

I

観光アンケート調査

1 調査概要

(1) 調査の目的

「仙北市観光振興計画」を策定するにあたり、この基礎資料とするため、仙北市を訪れた方を対象にアンケート調査を実施した。

(2) 調査箇所

田沢湖高原アルパこまくさ前、JR田沢湖駅前、田沢湖春山駐車場、田沢湖たつこ像前、角館樺細工伝承館前、JR角館駅前の市内6カ所

(3) 調査手法及び実施日時

調査手法：聞き取り及び自筆

実施日時：平成19年8月9日（木）午前10時～午後2時

(4) 回答結果

全調査箇所で347人から回答を得た。各調査箇所ではほぼ同じ割合となっている。

2 調査結果

①動向

男女の割合は概ね半々、年齢では50代が多くなっている。関東からの観光客が半数で、最も多い都道府県は東京都の63人。リピーターは約半数を占める。旅行人数は2人がもっとも多く、家族、配偶者で60%を占め、少人数の旅行者が多い。移動手段は新幹線が35%、自家用車が33%となっており、飛行機の利用者は意外に少ない。

今回のアンケート調査は、夏休み、お盆前ということで、家族連れ、帰省された方等が多く見られた。東海・近畿の割合よりも信越・北陸が低くなっているためこの地域へのPRが必要と思われる。また、遠くは、沖縄、海外、東北でも、青森、山形、福島の割合が低い。

【上位3つ】

年齢	住まい	訪問回数	人数	構成	交通手段
50代 24%	関東 50%	1回 46%	2人 41%	家族・配偶者 60%	新幹線 35%
40代 20%	県内 15%	5回 22%	5人 20%	友人 17%	自家用車 33%
60代 18%	東北 12%	2回 14%	4人 15%	一人、7人 各7%	貸切バス 10%

②宿泊状況

8割を超える方が宿泊し、47%が田沢湖地区に宿泊している。日帰りのほとんどは県内、東北の観光客であるが、関東地区からの方も数名見られた。宿泊日数は2泊が最も多く、その他県内、県外の宿泊が32%あり、市内へ宿泊してもらう取り組みが必要である。

【上位2・3つ】

宿泊	宿泊場所	宿泊日数
宿泊 83%	仙北市 55%	2泊 39%
日帰り 15%	県内 23%	3泊 33%
	県外 9%	1泊 27%

③動機と魅力

仙北市を訪れた動機として、「雑誌ガイドブック等を見て」が最も多く24%。テレビ・雑誌・ポスターなど宣伝効果によると思われるものを合わせると41%を占める。「以前来て良かったから」と回答したリピーターが15%。その他として登山や、湯治目的の方が多かった。魅力的要素は、自然、温泉で6割を占める。訪れた場所は、田沢湖畔が21%で最も多く、(湖畔の調査地点は2カ所)駒ヶ岳、抱返り渓谷などの自然に関係する場所を合わせると3割、各温泉郷の合計が3割となっており、訪れた場所と魅力がほぼ一致している。訪れた季節では夏が一番多かった。冬は10%と低くなっており、冬季の誘客が必要である。

【上位3・4つ】

動機	魅力	訪れた場所	訪れた季節
メディア等を見て 41%	自然 33%	自然関係 32%	春 17%
以前来て良かったから 15%	温泉 27%	温泉郷 34%	夏 36%
団体ツアーに参加して 9%	歴史文化 15%	武家屋敷 15%	秋 14%
	町並み 13%		冬 10%

④不満足度

不満な点について約7割の方が無回答で、3割の方が不満を持っていた。その内の半数が交通、案内看板などの交通環境に不満を感じていた。旅行途中なので今のところ「特にない」という方も見られた。

【具体的な不満な点として】

- ・旅館、食堂、施設などの対応や接客
- ・案内板の不備（道路、遊歩道）
- ・食堂施設の充実
- ・交通機関の運行本数が少ない（鉄道、バス）
- ・食事
- ・開発しないで欲しい
- ・渋滞（桜）
- ・自動車が多く危険
- ・トイレの清掃
- ・季節に応じた絵葉書、切手が売っていない

不満割合	
交通	22%
駐車場	9%
案内看板	17%
宿泊施設	7%
接客	5%
食事	8%
お土産	6%
トイレ	9%
その他	17%

⑤宿泊と食とお土産について

宿泊施設を決める条件として、温泉を条件に挙げる方が最も多く、温泉であることは重要な要素である。食事については、きりたんぼ、稲庭うどん、比内地鶏を約6割の方が食べた又は食べたいと回答している。お土産については3割の方がお菓子、次に高いのが漬物の2割だった。

【上位3・4つ】

宿泊条件	食事	お土産
温泉 29%	きりたんぼ 23%	お菓子 31%
料理 19%	稲庭うどん 23%	漬物 19%
料金 16%	比内地鶏 12%	民芸品 16%
	山菜料理 10%	

⑥リピーター度

また訪れたいと回答した方が9割を超えていた。仙北市を友人・知人へ紹介したいという方も9割だった。

3 インターネットによるアンケート

平成19年8月4日から10月3日まで、インターネットによるアンケートを実施し、196件の回答を得た。

聞き取り調査と比較すると、大きく違ったのが回答者の約7割が男性。5回以上訪れた方が6割を超えていた。訪れた動機では、約4割の方が以前来て良かったからと回答。

インターネットでは仙北市を訪れたことのない人もアンケートに答えており、仙北市を訪れてみたいですかとの問いに100%の方が訪れてみたいと回答している。

調査地点

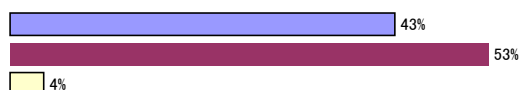
	項目	回答数	構成
1	田沢湖高原アルパこまくさ前	69	20%
2	JR田沢湖駅前	51	15%
3	田沢湖春山駐車場	58	17%
4	田沢湖辰子像前	50	14%
5	角館榊細工伝承館前	69	20%
6	JR角館駅前	50	14%
	計	347	100%



アンケート集計

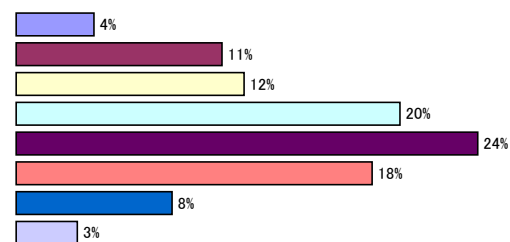
問1-① 性別は？

	項目	回答数	構成
1	男	149	43%
2	女	185	53%
-	無回答	13	4%
	計	347	100%



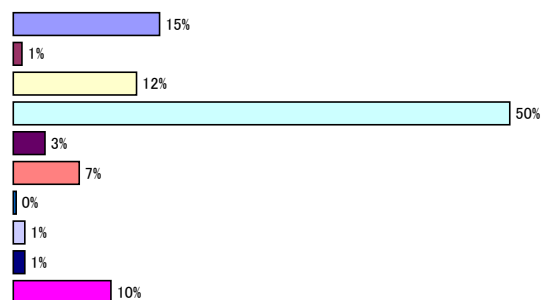
問1-② 年齢は？

	項目	回答数	構成
1	10代	14	4%
2	20代	37	11%
3	30代	41	12%
4	40代	69	20%
5	50代	83	24%
6	60代	64	18%
7	70代以上	28	8%
-	無回答	11	3%
	計	347	100%



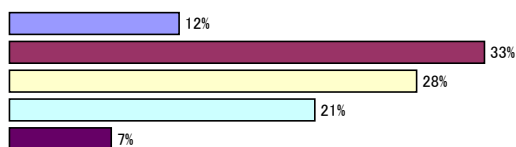
問1-③ 住まいは？

	項目	回答数	構成
1	秋田県	51	15%
2	北海道	3	1%
3	東北	43	12%
4	関東	173	50%
5	信越、北陸	11	3%
6	東海、近畿	23	7%
7	中国、四国	1	0%
8	九州、沖縄	4	1%
9	海外	4	1%
-	無回答	34	10%
	計	347	100%



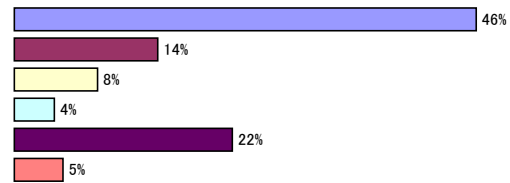
東北の内訳

	項目	回答数	構成
1	青森	5	12%
2	岩手	14	33%
3	宮城	12	28%
4	山形	9	21%
5	福島	3	7%
	計	43	100%



問2 仙北市を何回訪れましたか？

	項目	回答数	構成
1	1回	161	46%
2	2回	50	14%
3	3回	29	8%
4	4回	14	4%
5	5回	76	22%
-	無回答	17	5%
	計	347	100%



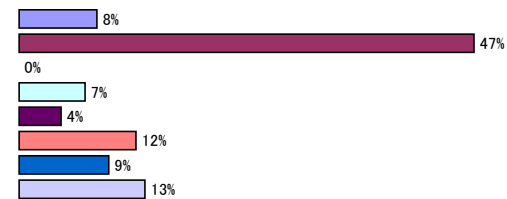
問3-① 今回の旅行は宿泊されましたか？

	項目	回答数	構成
1	日帰り	53	15%
2	宿泊	289	83%
-	無回答	5	1%
	計	347	100%



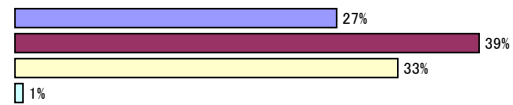
宿泊場所

	項目	回答数	構成
1	角館	26	8%
2	田沢湖	152	47%
3	西木	0	0%
4	秋田市	22	7%
5	男鹿市	14	4%
6	その他県内	39	12%
7	県外	30	9%
-	無回答	42	13%
	計	325	100%



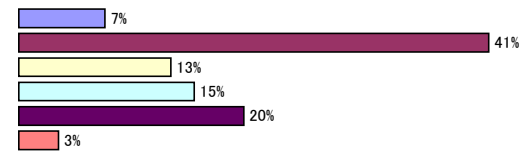
問3-② 宿泊日数は？

	項目	回答数	構成
1	1泊	79	27%
2	2泊	114	39%
3	3泊	94	33%
-	無回答	2	1%
	計	289	100%



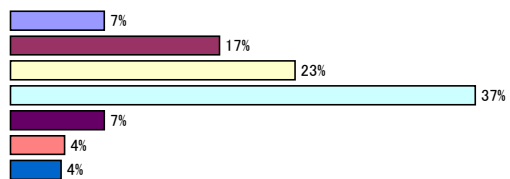
問3-③ 旅行人数は？

	項目	回答数	構成
1	1人	26	7%
2	2人	142	41%
3	3人	46	13%
4	4人	53	15%
5	5人	68	20%
-	無回答	12	3%
	計	347	100%



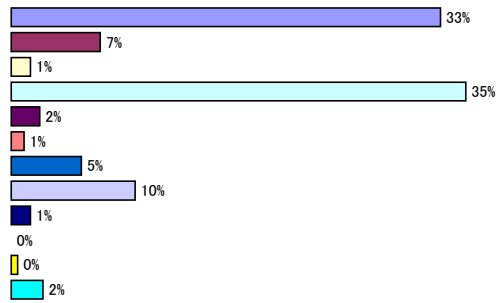
問3-④ どなたと？

	項目	回答数	構成
1	ひとり	26	7%
2	友人	58	17%
3	配偶者	79	23%
4	家族	129	37%
5	団体ツアー	26	7%
6	その他	15	4%
-	無回答	14	4%
	計	347	100%



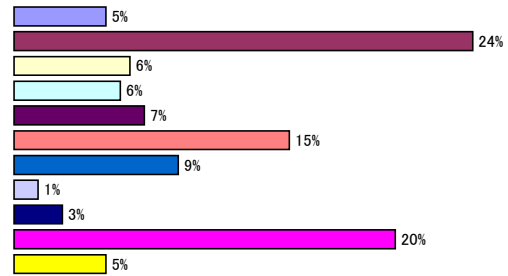
問3-⑤ 交通手段は？

	項目	回答数	構成
1	自家用車（二輪含む）	135	33%
2	レンタカー	28	7%
3	タクシー	6	1%
4	新幹線	143	35%
5	秋田内陸線	9	2%
6	その他鉄道	4	1%
7	バス（路線・長距離バス）	22	5%
8	貸切バス	39	10%
9	飛行機	6	1%
10	船	0	0%
11	その他	2	0%
-	無回答	10	2%
	計	404	100%



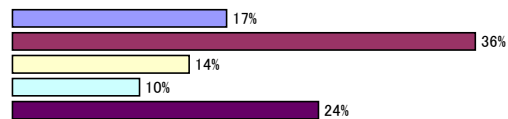
問4 動機は？

	項目	回答数	構成
1	テレビ、ラジオで知って	19	5%
2	雑誌ガイドブック等を見て	95	24%
3	ポスター、パンフレットを見て	24	6%
4	インターネットを見て	22	6%
5	人に勧められて	27	7%
6	以前来て良かったから	57	15%
7	団体ツアーに参加して	34	9%
8	職場、町内会等の旅行で	5	1%
9	仕事で	10	3%
10	その他	79	20%
-	無回答	19	5%
	計	391	100%



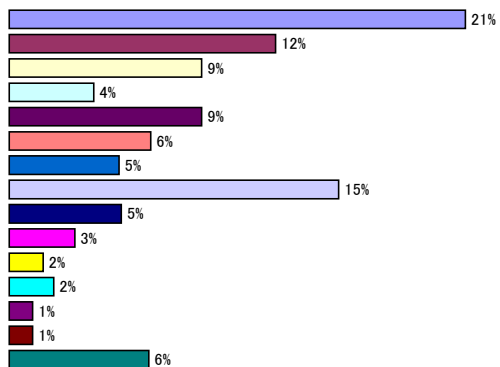
問5 訪れた季節は？

	項目	回答数	構成
1	春	86	17%
2	夏	186	36%
3	秋	71	14%
4	冬	51	10%
-	無回答	123	24%
	計	517	100%



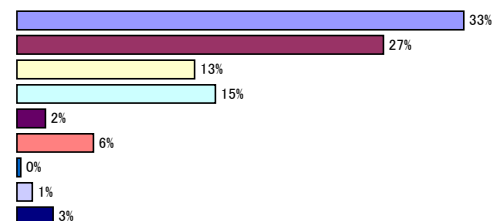
問6 訪れた場所は？

	項目	回答数	構成
1	田沢湖畔	216	21%
2	乳頭温泉郷	126	12%
3	田沢湖高原温泉郷	91	9%
4	水沢温泉郷	40	4%
5	玉川温泉・玉川ダム	91	9%
6	秋田駒ヶ岳・乳頭山	67	6%
7	抱返り渓谷	52	5%
8	武家屋敷	156	15%
9	桧木内川桜並木	53	5%
10	ミスバショウ群生地	31	3%
11	カタクリ群生地	16	2%
12	お祭り	21	2%
13	イベント	11	1%
14	その他	11	1%
-	無回答	66	6%
	計	1048	100%



問7 魅力は？

	項目	回答数	構成
1	自然	234	33%
2	温泉	192	27%
3	町並み	93	13%
4	歴史・文化	104	15%
5	お祭り	15	2%
6	食べ物	40	6%
7	体験型観光	2	0%
8	その他	8	1%
-	無回答	19	3%
	計	707	100%



II

仙北市観光振興計画策定委員名簿

職	氏名	住所	所属団体等
委員長	高橋 義男	仙北市角館町	花葉館
副委員長	佐藤 厚子	仙北市西木町	むらっこ物産館
委員	石井 眞弓	仙北市角館町	西宮家
委員	佐藤 京子	仙北市田沢湖	妙乃湯
委員	佐藤 和志	仙北市田沢湖	観光カリスマ
委員	田口 久義	仙北市田沢湖	観光カリスマ
委員	岩田 均	神奈川県藤沢市	映画プロデューサー
委員	土屋 朋子	埼玉県川口市	ｽﾎｰﾝ・ﾚｼﾞｬｰﾌﾟﾛﾃﾞｭｰｻｰ
委員	道端 忠孝	秋田市	学校法人ノースアジア大学
委員	田口 宗良	仙北市角館町	角館町観光協会
委員	堀内 新平	仙北市田沢湖	社団法人田沢湖観光協会
委員	小林 康次郎	仙北市西木町	西木観光協会
委員	堺 研太郎	仙北市角館町	仙北市商工会

Ⅲ

計画策定までの経過

平成19年

月 日	項 目
5月8日	第1回産業観光部・重点プロジェクト推進室検討会
5月14日	仙北市観光振興計画策定委員会設置要綱制定
6月1日～ 25日	観光振興計画への提言募集
6月12日	第2回産業観光部・重点プロジェクト推進室検討会
7月5日	第1回仙北市観光振興計画策定委員会
8月4日～ 10月3日	仙北市観光アンケート調査（インターネット）
8月8日	仙北市観光アンケート調査（観光地）
8月22日	第3回産業観光部・重点プロジェクト推進室検討会
8月31日	第2回仙北市観光振興計画策定委員会
9月26日	第3回仙北市観光振興計画策定委員会（分科会）
11月5日	第4回産業観光部・重点プロジェクト推進室検討会
11月27日	第4回仙北市観光振興計画策定委員会

IV

仙北市観光振興計画策定委員会設置要綱

(目的)

第1条 観光の振興を図る施策展開の指針となる仙北市観光振興計画（以下「観光振興計画」という。）を策定するため、仙北市観光振興計画策定委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(任務)

第2条 委員会は、観光に関する施策について審議し、観光振興計画策定のため市長に提言を行う。

(組織)

第3条 委員会は、委員13人以内で組織する。

2 委員は、次の各号に掲げる者のうちから、市長が委嘱する。

- (1) 地域住民の代表者
- (2) 観光関係団体から推薦された者
- (3) 観光に関する知識、経験が卓越している者
- (4) 前3号に掲げるもののほか、市長が必要と認める者

(任期)

第4条 委員の任期は、第2条に定める任務が終了するまでの間とする。

(委員長及び副委員長)

第5条 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員の互選により定める。

- 2 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。
- 3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会の会議は、必要に応じて委員長が招集する。

- 2 委員長は、会議の議長となる。
- 3 委員会は、委員の半数以上が出席しなければ会議を開くことができない。
- 4 委員会は、必要に応じて、関係者の出席を求め、意見又は説明を聴くことができる。

第7条 委員会は、委員長が招集し、委員長が会議の議長になる。

(事務局)

第8条 委員会の事務局は、産業観光部観光課に置く。

(補則)

第9条 この要綱に定めるもののほか、委員会等の運営に関し必要な事項は、市長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成19年5月14日から施行する。